

オウム真理教対策住民協議会ニュース

第10回

リ サ イ ク ル

新品 いっぱい バザー

4月9日(土) 午前10時  
鳥山区民センター前広場

(雨天の場合は3階会議室とセンター前広場テント内で行います)

15年間活動を続けてきた  
住民協議会にご協力  
をお願いします。

鳥山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

物品提供  
お願いします  
初めての提供  
大歓迎です

オウム真理教対策住民協議会が行う、リサイクルバザーも10回目を迎えます。オウム真理教の「解散・解体」を目標に続けてきた活動も16年目に入り、未だに不穏な活動を続けるオウム信者から目を離す事が出来ません。私たちは年2回の抗議デモと学習会、毎月の協議会ニュースの発行、毎日のオウム施設の監視活動などを、皆様からの募金で行っています。

この様な活動を続けるために、リサイクルバザーの売上げは活動資金として住民協議会を支えています。今年もバザーの売上げで、住民協議会の活動が続けられますよう、ご協力をよろしくお願い致します。

1) 物品受付日時と場所

- ・4月1日(金) 午前10時~12時 鳥山区民センター 3階第6会議室
  - ・4月3日(日) 午後1時~3時 鳥山区民センター 3階第6会議室
  - ・4月5日(火) 午前10時~12時 鳥山区民センター 3階第6会議室
  - ・4月7日(木) 午後1時~3時 鳥山区民センター 3階第6会議室
- ※駐車場は鳥山区民センターにはありません。

2) 受付物品

- ・日用品(石けん、タオル、シーツ、陶器類、乾物類など)
  - ・衣料品(子供服、婦人服、紳士服など新品、あるいはクリーニング済みのもの)
  - ・雑貨(アクセサリ、玩具、ハンドバッグ、靴、時計など)
- ※物品によってはお受け出来ないものもあります。  
※陶器類・靴は新品に限ります。ご了承ください。

●お問い合わせ：03(3326)1202(鳥山総合支所内事務局)

活動資金へのご支援ありがとうございます。(鳥山地域イベント会場で募金活動を行っています)

- ・1月19日 鳥山・給田地区合同新年会 31,574円
- ・2月7日 第28回中学生のつどい 4,665円
- ・2月11日 第18回からすやま新年子どもまつり 1,178円

連載 オウム真理教と闘い続ける②0 宮崎隆一さんより

なぜオウム真理教なのか?なぜこの町なのか?誰もがそう感じた。教団の侵入は無法者が闇に紛れるように巧妙で素早かった。誰もが恐怖心と共に、怖いもの見たさがないまぜになった状況だったが、その10日後には近隣で一家殺害事件が起きるとい、なんとも痛ましい記憶のみが残る年末でした。私が住民協議会の活動に参加したのは、それから1年が経過した頃でした。広報部に加わり間もなく、協議会ニュースの取材で、オウム真理教と闘った河口湖町(旧上九一色村)在住の竹内精二氏を訪問したことが、私の住民協議会活動の原点となりました。オウム真理教の最大勢力時に、サテアンに忍び込み、施設内の調査・撮影、信者を自宅に宿泊させ、脱会を促し親元に返す活動などを、外連味なく語る竹内氏に衝撃を覚えました。地元と住民を守ることを、本気で考えた人の

姿を間近にして、住民協議会活動への確信のようなものが芽生えたことが思い出されます。住民協議会の15年間の活動は決して平坦な道のりではありませんでした。意見や方針の違いによる分裂、協議会が特定な考えに偏らない活動スタイルの論議、実践方針の対立などを経験し、解散・解体のスローガンを決定、協議会事務局・専門部の組織確立などを経て、今が築かれています。私もこの活動で、少なからず成長させていただいたことに感謝しています。特に広報部の仲間から、原稿や校正での厳しい指摘は、私の財産とも言えます。今月号を以て連載「オウム真理教と闘い続ける」は終了となりますが、心よく取材や原稿作成にご協力いただいた皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、住民協議会へのご支援ご協力をお願いいたします。ありがとうございました。



# 第32回 抗議デモ・学習会

## 5月14日(土)

●抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場  
●学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 (仮称) 「ひかりの輪・  
上祐史浩の正体とは」

オウム真理教後継団体アレフより分裂、ひかりの輪が結成されたのが、2007年(平成19年)。一方上祐史浩は、元教祖麻原彰晃(死刑囚)の側近を経て、アレフ代表からひかりの輪代表となる。「脱麻原」を唱えるひかりの輪、社会的な信用の担保を狙う上祐史浩、その本質に迫る。

講師:フリーライター 藤倉善郎氏

### 「オウム真理教対策関係市区町連絡会」による国への要請行動

1月19日、オウム真理教対策関係市区町連絡会は、地域住民の不安解消を図るため、オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の活動に対する規制の強化と活動停止・解散に向けた法整備を行うよう要請書を岩城法務大臣(当日は盛山副大臣)と野々上公安調査庁長官に手渡した。要請行動へは、オウム真理教対策議員連盟と住民協議会から金沢市、足立区、世田谷区の3団体も同行し、総勢30名を越す参加者となった。

今回の要請書には、国内のテロリスト対策が急務であることからオウム真理教対策にもつながる新たな法律の制定を強く訴えた。また、オウム真理教の不穏な動きを察知し情報が共有できる会議体を設置するよう求めた。各住民協議会からも未だ住民の不安は払拭されていないとの報告があった。この要請行動が、法整備へ向けて一歩でも前進してくれることを願うものである。



野々上公安調査庁長官に要請書を手渡す連絡会代表団

### 世田谷区主催講演会「オウム真理教問題を風化させない」を聞いて

師走も半ばとなった12月10日、砧区民会館で世田谷区主催の「オウム真理教問題講演会」に参加した。講師はかねがね聞いてみたいと思っていた、立正大学心理学部教授の西田公昭氏だ。冒頭に地下鉄サリン事件後より、テロの形態が変化した。或る時突然、無差別に人々を殺戮するようになったと語り、地下鉄サリン事件の特異性を強調した。サリン事件死刑囚と面会した経験に基づき、死刑囚の多くは特別ひどい人には思えない。彼らにオウム真理教や事件について語ってもらうことで、信者の心を理解することが必要だ。さらに、麻原に思考の停止を操作され、教団内では命令された事を単純にやるのみで、その作業が恐ろしい事件に繋がるなどは考えさせなかった。菊池直子を例に出し、サリン製造の作業は、それが何に使用されるかは分かっていた。捕まれば裁判になり、刑務所へ送られると単純に考え逃亡を続けた。一歩間違えば、現代の若者もオウム真理教信者と同じになると警鐘する。現代社会を分析し、オウム真理

教に入信した世代を「自分探しの迷走」「個人の変革、啓発」をめざしたが挫折し、人生をリセットする世代と分析。特徴として、自由主義、民主主義はいらない、先頭に立つ力のある人に服従する世代で、これはファシズムの台頭へとつながる。現在の社会とも共通するが、オウム真理教のメンバーも同じだった。

オウム真理教の修行の特徴は、マインド・コントロールであり、修行により自己を高めるという欲求が利用され、自らの人生を麻原に託す事となる。「自分の役目を果たす」「トップのようになりたい」「最高の教えに従う」「やさしくも厳しいリーダー」と言う図式が、カルトの支配の特徴だが、個人がこの中に入ると、拘束される自由はあるが、脱会しようとするれば、恐怖を感じるようになる。カルトの修行は、やがて信者自身が人権を侵害する側となっていく。そしてオウム真理教信者を殺人者にしたのは、マインド・コントロールであったと結んだ。

### 住民協議会活動報告

1月19日(火) オウム真理教対策関係市区町連絡会とともに法務大臣、公安調査庁長官へ要請書を提出  
2月11日(木・祝) からすやま新年子どもまつりで募金活動

2月19日(金) 住民協議会  
2月21日(日) 粕谷子どもまつりで募金活動  
2月22日(月) 協議会ニュース153号初校正  
2月29日(月) 協議会ニュース153号再校正  
3月5日(土) 若返り桃まつりで募金活動  
3月7日(月) 協議会ニュース153号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。